

# 仙台市が荒浜周遊バス

7～8月 運行実証実験

## 沿岸にぎわい創出狙う

仙台市は今年夏、若林区荒浜の深沼海水浴場や観光農園などの施設を巡る周遊バスの運行実証実験に乗り出す。バス会社の協力を得て、1カ月ほど運行して周遊のニーズや課題を洗い出し、沿岸地域のにぎわいづくりにつなげたい考え。



実証実験は、深沼海水浴

場と7～8月に開催予定の海に親しむイベントに合わせ計画。地下鉄東西線の荒浜駅を起点に、東日本大震災の震災遺構「荒浜小」、体験型観光農園「JRフルーツパーク仙台あらはま」、複合観光施設「アクアイグニス仙台」などを巡る。運行時間とルートは今後、具体的な検討に入る。運賃は未定だが1日定額乗り放題にする予定。実験で周遊バスの需要や収益性を見極め、本格運行の可能性を検討する。

市によると、沿岸地域を訪れる多くの人が車を利用する。マイカーを使わない観光客らを取り込むための課題として、周辺駅からの2次交通の拡充を求める声が地域の事業者から挙がっているという。

市観光課の担当者は「仙台の沿岸部の魅力や被災地の復興を多くの人に知ってもらうため、受け入れ環境の課題を探り事業者らと共有したい」と話す。

市は事業費1500万円を2023年度一般会計当初予算案に盛り込んだ。インターネットや広告などを活用した情報発信の事業費1000万円も併せて計上。いずれも海の魅力を発信する国の「ブルーツーリズム推進支援事業」の補助金などを充てる予定。